

文書館 ニュース

山口県文書館

Yamaguchi Prefectural Archives

No.51

contents

- WEB版 明治維新資料室.....2/3
- 公文書館機能普及セミナーin山口.....4
- 平成28年度新収諸家文書の紹介.....5
- 小田家の護符資料.....6
- 第11回AW「いやす なおす たもつ」
- 徳山毛利家文庫「幕閣」発給文書.....7
- 活用講座の授業プランから
- 県庁舎・県会議事堂開庁式.....8

WEB版

明治維新資料室

URL <https://trc-adeac.trc.co.jp/WJ11C0/WJJS02U/3500115100>

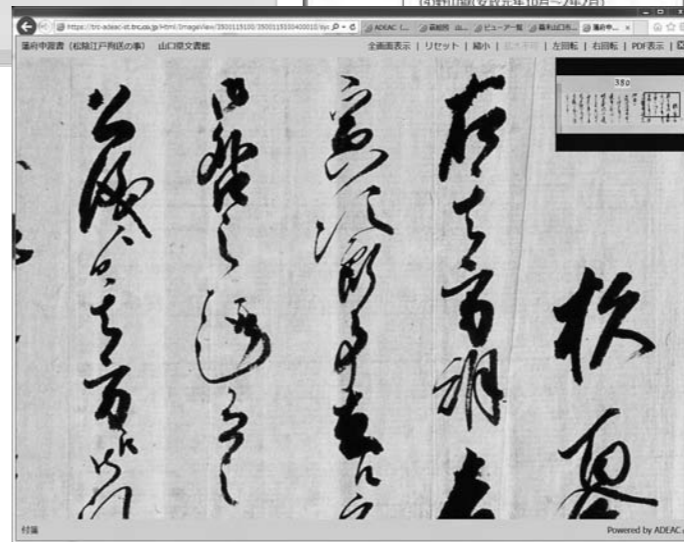
(当館ウェブサイトリンクを貼っています。)



吉田松陰関係資料 (吉田家伝来)

「吉田松陰関係資料」は、松陰が家督を継いだ吉田家に伝来した資料群です。「吉田松陰自賛肖像」「松下村塾記」「絶筆」をはじめ、松陰自筆書状、久坂玄瑞・高杉晋作ら門弟、家族、友人が松陰に宛てた書状などを数多く含み、松陰の生涯を知る上で不可欠な資料群です。平成21年(2009)、県指定有形文化財に指定されています。

今回、嘉永3年(1850)8月～安政6年(1859)10月の資料を中心に377点を高精細デジタル化しました。資料画像の原寸大拡大はもとより、PDFファイルのダウンロードも可能です。また、国立国会図書館デジタルコレクションと連携し、『吉田松陰全集』(岩波書店、昭和9-11年)の積文とあわせてご覧いただけます。



写真左：「藩府申渡書」画像
写真中：同上 拡大画像
写真右：吉田松陰関係資料トップ画面

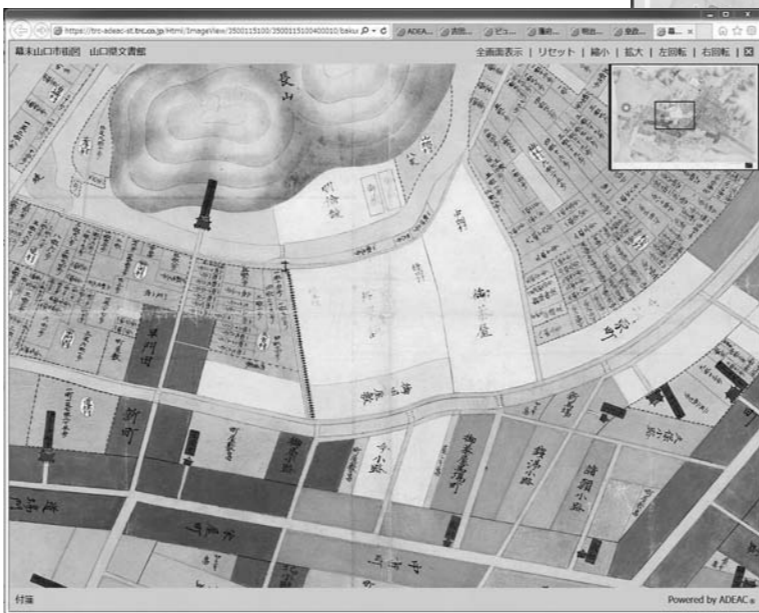
明治維新関係絵地図

山口県文書館は、昭和34年(1959)に日本初の文書館として誕生し、毛利家文庫をはじめ、山口県行政文書(重要文化財)、吉田松陰関係資料など50万点にもおよぶ文書・記録類を収蔵しています。

また、山口県立山口図書館は、国内でも有数の近代草創期の資料を所蔵するとともに、明治36年(1903)の開館以来、地域資料の積極的な収集を行ってきました。

当サイトは、平成30年(2018)に明治150年を迎えるにあたって、県立山口図書館・山口県文書館が所蔵する明治維新関係資料の利活用を推進するため、両館が協同して構築しました。

※構築にあたっては(公財)図書館振興財団 平成28年度振興助成事業の助成を得ました。



写真上：「幕末山口市街図」画像
写真下：同上 拡大画像

当館所蔵の絵図・地図の中から、「幕末山口市街図」(1868頃)、「皇政復古70年記念山口史蹟図」(1936)、「萩御城下絵図」(1865)、「萩絵図」(1649)の4点を高精細デジタル化しました。

タブレットやスマートフォンでもご覧いただけますので、まち歩きの時など、歴史資料が手軽にご利用いただけます。

県立山口図書館所蔵

明治維新関係版本



写真：「活版兵家須知戦術門 一」

県立山口図書館が所蔵する幕末～明治初の版本を高精細デジタル化しました。藩校明倫館で刊行された大村益次郎翻訳の兵術書などがご覧いただけます。

幕末期の木版摺瓦版「元治元年長門の国大火之図」ほか3点を高精細デジタル化しました。

なお、この他にも「山口の逸品」として、「聚分韻略」(県指定有形文化財)と「仮御手鑑」がご覧いただけます。

幕末の瓦版



写真：「元治元年長門の国大火之図」

「現在、求められる公文書管理と公文書館の備えるべき機能と役割」を開催！

平成二十八年八月三十一日、山口県庁において、「公文書館機能普及セミナー in 山口」（主催：全国歴史資料保存利用機関連絡協議会（通称：全史料協）、共催：山口県・山口県教育委員会）が開催されました。このセミナーは全史料協が公文書館機能の普及を図るため、毎年全国各地で開催しているものです。今年度は当館が毎年開催している「歴史的公文書等の保存活用のための連絡会議」と併せて開催され、県内外から約八十名の参加がありました。

セミナーでは、まず早川和宏氏（東洋大学法学部法律学科教授）より、「現在、求められる公文書管理と公文書管理法施行から5年を経過して」と題して講演があり、次いで（公財）日本都市センターの三好久美子氏より高松市公文書管理條例の制定と公文書館開館にいたる経緯について、さらに当館の伊藤一晴専門研究員より山口県内市町の公文書館機能に関するアンケート調査結果が報告され、最後にディスカッションが行われました。

アンケート調査によると、山口県内のほとんどの市町では歴史資料として重要な公文書の管理に関する業務が組織法上に規定されていないなど、特に【1 基本事項】について他県と比べても低調であることが明らかとなりました。加えて、昭和・平成の市町村合併時の保存・啓発活動により数多くの公文書が保存されているものの、それらは職員の異動や庁舎の建て替え時に散逸する可能性があるなど、大きな課題を抱えていることが浮き彫りとなりました。



【写真上】
会場の様子

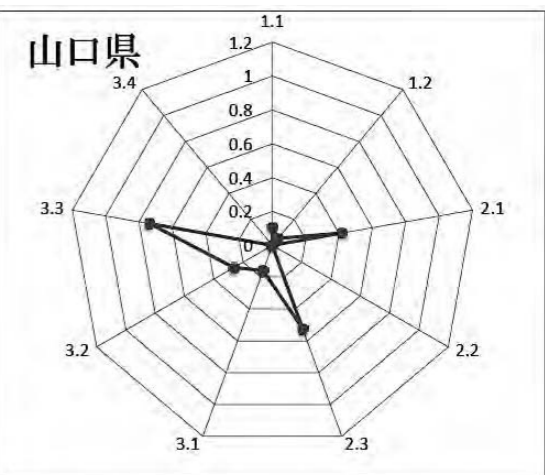
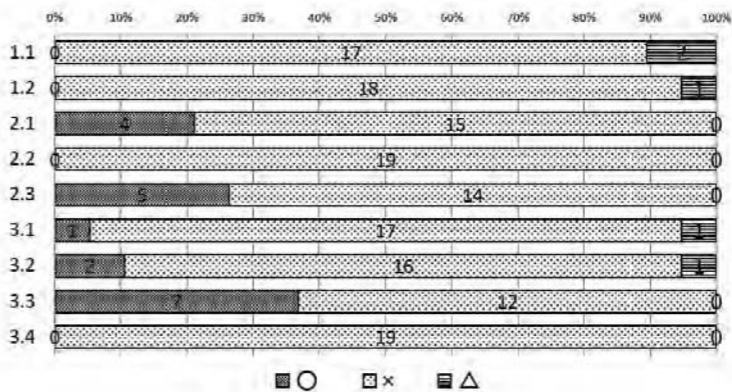


【写真左】
ディスカッションの様子

○公文書館機能自己点検・評価指標「ミニマムモデル」（全史料協、2011）
※19市町が下記項目毎に、はい→○ いいえ→× その他→△ で回答

- 【1 基本事項】
- 1.1 歴史資料として重要な公文書等の管理に関する一連の業務が組織法（条例・規則・規程・要綱等その形式は問わない）上、規定されている。
 - 1.2 歴史資料として重要な公文書等に関する業務状況が何らかのかたちで一般に公表されている。
- 【2 保存・管理】
- 2.1 当該自治体の情報公開条例に規定された実施機関のうち、50%以上の機関の歴史資料として重要な公文書等を収集（移管）の対象としている。
 - 2.2 歴史資料として重要な公文書等の収集方針、評価選別基準（これらに相当するもの）等を明文化し、公表している。
 - 2.3 文書管理等の規程上、歴史資料として重要な公文書等の保存場所を規定し、現用文書の保管場所と異なる専用の場所で管理している。
- 【3 公開・調査研究】
- 3.1 自らが管理する歴史資料として重要な公文書等の目録を作成し、それが一般に公表されている。
 - 3.2 閲覧を制限する場合の基準を持ち、一般に公開している。また、その基準に該当するものを除いて、一般利用の制限が行われていない。
 - 3.3 標準的な資料複写料金が、当該自治体の情報公開制度による「写しの交付に要する費用」と同等かそれ以下となっている。
 - 3.4 歴史資料として重要な公文書等の収集・保存・閲覧等に関する調査研究を行い、その成果を毎年度公表している。

○県内19市町の「ミニマムモデル」アンケート回答結果（上記項目に対応）



※○→2点、△→1点、×→0点とし、各事項における回答の平均値を示した。

平成二十八年度の
新収諸家文書を紹介します！

今年度、一九家・一〇六八〇点の諸家文書の閲覧を開始しました。その中から三つの文書群を紹介します。

■宇野家文書

宇野家は、大内氏庶流宇野氏の末裔と伝え、江戸時代に萩藩領熊毛宰判下久原村（現岩国市周東）に居住して、周辺の村の庄屋や諸隊の世話役などを務めた家です。明治期以降は、村会議員や県会議員・県会議長も務めています。同家は、山口県出身の作家・宇野千代の父親の生家でもあります。

文書の内容は、宇野家が明治期以降の「家」としての活動により作成・蓄積された文書群が大部分を占めています。また、幕末期に高森市（同）に駐屯した遊撃隊をはじめとする諸隊の兵站を担ったことにより作成・授受された帳簿類や、大正・昭和戦前期の尺八の譜面（主に都山流）が大量に残されていることが特色です。その他、家業の酒造に関わる文書も若干含まれています。

■相木家文書

相木家は、肥前竜造寺氏の末裔と伝え、江戸時代に萩藩領熊毛宰判立野村（現光市）に居住して、萩藩寄組土清水家の上級家臣として活動した家です。明治時代末や昭和戦前期には熊毛郡周防村長も務めています。

文書の内容は、相木家の「家」としての活動により作成・授受された文書群から構成されています。

このなかには、主家である清水家の公文書的な性格を持つ文書が含まれています。また、幕末に島田市（現光市）において、倉敷騒動の中心人物である立石孫一郎を討ち取った春利や、その子で第二奇兵隊長を務めた正信の勲功をまとめた巻子もあります。その他、本来は公家である勸修寺家に伝来したと思われる毛利輝元書状をまとめた巻子が含まれているのも注目されます。

■常栄寺文書

常栄寺は、臨済宗東福寺派の寺院で、安芸国吉田（現広島県安芸高田市）に創建された毛利隆元の菩提寺です。山号は香山で、開山は竺雲恵心です。江戸時代、上宇野令の国清寺跡地（現山口市）に移り、さらに宮野（同）の現在地に移りました。潮音寺と改称していた時期もあります。

文書の内容は、大内氏や毛利氏、開山の文書などを軸装したものをはじめ、足利・徳川両將軍家発給の「公帖」、恵心等の語録、禅門の法語のほか、由緒、絵図、江戸時代における各種の法要や寺院経営に関わる文書等、多岐にわたります。当館架蔵の寺院文書のなかでも、まとまった内容と数量を持つ文書群です。

■平成28年度の新収諸家文書

No.	文書名	点数	主な文書の年代	文書群の特徴 (関連地域、個人・家の歴史、就任役職等)
1	池田家文書	25	近世～現代	教員／武術
2	上松氏収集文書	16	近世	コレクション
3	宇野家文書	3000	近世～現代	庄屋／諸隊／議員／酒造／尺八
4	相木家文書	62	中世～現代	萩藩清水家臣／諸隊
5	小川家文書	114	近世～近代	萩藩厚狭毛利家臣
6	金屋小田家文書(追加)	3874	近世～近代	商家／護符
7	片山家文書(下関市豊浦町)	1669	近世～近代	長府藩庄屋／村長／議員
8	木梨家文書(追加)	229	近世～現代	男爵／図書
9	小山家文書	272	近代～現代	教員／軍人
10	嶋家文書	42	中世～近代	水軍／萩藩村上山家臣／議員
11	常栄寺文書(追加)	1147	中世～現代	寺院
12	高洲家文書(追加)	15	中世～近世	備後国人／萩藩士（大組）
13	高津家文書	62	近世～現代	地図／図書
14	田中家文書(宇部市楡小野)	2	近世～近代	畔頭
15	野村家文書(長崎県・追加)	3	近代	村職員
16	原田家文書(防府市八王子)	2	近代	図書
17	福井家文書	139	近世	萩藩士（無給通）
18	堀江静子文書(追加)	1	近代	商家
19	松本勇介収集文書	6	近世	コレクション／吉田松陰

さまざま祈りのかたち

（小田家（柳井市金屋）の護符資料）

神社や仏閣、あるいは修験者などが発行した、いわゆる「お守り」や「祈祷札」のことを「護符（まもり）」とよみます。

当館にはこれまで、佐川家文書（平生町）や吉田家文書（上関町）にいくらかまとまったものがあるほか、上村家・市原家・津田家・内藤家・奈古屋家・井原家等の文書に散見されましたが、このたび柳井市金屋の小田家から、一〇五四件、三八七四点の護符資料が追加寄託されました。

小田家は江戸時代の柳井津町を代表する町人、

商人であり、諸商い・絞油業・地主経営・塩田経営などで発展をとげました。そのため護符も、個人の健康や平安を祈願するものから、家の経営に関わるさまざま祈願を込めたもの、また商売先や旅行先で受けたものまで、実に多様な「祈りのかたち」を知ることができます。

護符は同家の屋根裏にまとめて保管してありました。年号が記されたものはほとんどありませんが、江戸時代のもが多く含まれています。



（上）伊勢神宮大麻のいろいろ

- ①は五百度祓の大麻（たいま）で、箱形をしています。江戸時代に内宮の祠官だった荒木田氏の御師（おんし）林周防大夫が出したものです。
- ②は外宮の御師であった谷兵部大夫の大馬。外宮の祭神・豊受大神は、「五穀成就御祈禱」にみえるように、食物・穀物を司る神とされています。
- ③は伊勢大神楽の祓。伊勢大神楽は三重県桑名市太夫にある増田神社を本拠とし、獅子舞を舞いながら諸国を巡りました。「加藤源太夫」組は平成に至るまで活動していました。なお、②③のような形の大麻を「剣祓（けんばらい）」といいます。



（左）生目八幡の藤原景清像護符

生目神社は宮崎県宮崎市大字生目にあり、古くから眼病に霊験ありとして信仰されました。「かげ清く照らす生目の水鏡、末の世までも曇らざりけり」の神歌が記されています。かつては疫病や栄養・環境の状態から眼病にかかる人が多く、小田家の護符の中にも眼病平癒に関わるものが多くあります。

第11回中国四国地区アーカイブズウィーク

いやす なおす たもつ

— 文書館資料にみる病氣・医療・健康 —



毎年多くの方に参加いただいている中国四国地区アーカイブズウィーク。28年度は「いやす なおす たもつ」— 文書館資料にみる病氣・医療・健康 — というテーマで行いました。ひとつが高い関心を持ち続ける病氣・医療・健康。その歴史の一角を文書館資料から紹介し、健康や医療を考えるひとつのきっかけを提供したいという思いで開催しました（6月1日〈水〉〜5日〈日〉）。

週末は閲覧室を模様替えし、「医師と人々」「病氣と祈り」「身を保つ」「医学あれこれ」というコーナーを設け資料展示を行いました（配布した展示解説シートは当館ウェブサイトからダウンロードできます）。土曜日には歴史探究講座「近世防長の医療と医学」を開催し、中澤淳山口大学名誉教授から「近世防長医学史」と題する講演をいただきました。また、当館専門研究員が、萩藩領内の医師たちのあり方や、徳山藩主の病と健康に関して、研究成果を報告しました。

公開はじまる！

徳山毛利家文庫「幕閣」発給文書



今年度、徳山毛利家文庫の「幕閣」発給文書一一九二件、二九七七点の公開をはじめました。ここには老中を中心に、大老や側用人といった江戸幕府の要職を務めた人々が発給した文書が含まれています。

古いものでは、四代將軍徳川家綱（在職一六五〇〜一六八〇）時代の文書があります。写真1は、老中の顔ぶれと内容から、承応三年（一六五四）のものと考えられます。署名には、後には大老として力をふるい「下馬將軍」と称された酒井忠清や、「知恵伊豆」として有名な松平信綱の名が見えます。新しいものは、嘉永期（一八四八〜一八五四）の文書です。幕末に幕政を主導した阿部正弘の文書もあります（写真2）。

この「幕閣」発給文書と、すでに公開している「徳川將軍」発給文書により、徳山毛利家文庫に含まれる幕府の発給した文書のほぼすべてが公開されました。幕藩関係解明の一助となれば幸いです。



写真1 江戸幕府老中連署奉書（幕閣748）

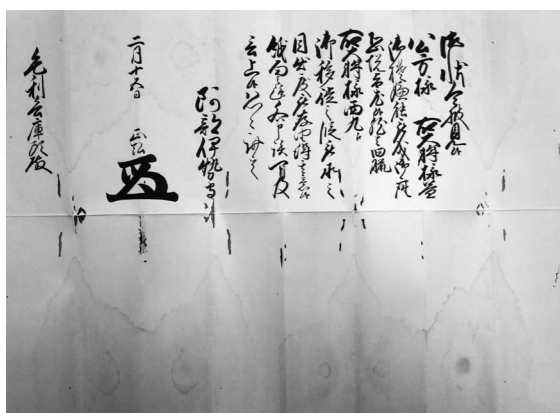


写真2 江戸幕府老中奉書（幕閣979）

文書館資料でこんな授業を考えました

— 活用講座の授業プランから —



当館では毎年、教員を対象に「授業で使える文書館活用講座」を開催しています。講座では当館職員が所蔵資料を紹介し、その活用方法を解説するとともに、受講生みずからテーマを持ち、「授業で使える」資料の掘り起こしと教材化に取り組みます。今年度の講座で報告された授業プランのいくつかを紹介しましょう。

○ 私たちの地域の今と昔 — 10年ずつさかのぼってみよう —

学校所在地の地図・絵図を使い、地域の変遷を見ようとするものです。「町の姿が大きく変化したのはいつだろうか？」などの問いも発しやすく、生活経験から変化も実感できるメリットがあります。

○ 湯田温泉について調べてみよう

小学四年社会科「山口県の特徴ある地域」の学習単元での実施を想定。県内の観光地湯田温泉を取り上げ、観光マップや絵葉書から湯田温泉の変遷を考えてみようというものです。この授業は、講座の後、実際に実践されたそうです。

○ 山口県の北海道移住について

明治期の山口県から北海道への移住を、開拓地の絵図や新聞記事から考えてみようというものです。この授業は、講座の後、実際に実践されたそうです。

○ 郷土資料を活かした古典授業

吉田松陰や高杉晋作など、郷土の著名人が書き残した文章を古典の教材として活用することで、生徒の興味関心を引き出そうとする試みです。高等学校の国語（古典）学習におけるアクティブラーニング型授業の提案として、山口県高等学校教育研究会国語部会で事例発表されました。



平成 28 年度、県庁舎・県会議事堂は竣工 100 年を迎えました！

■大正 5 年 県庁舎・県会議事堂開庁式



写真 1 (戦前内務部 172)

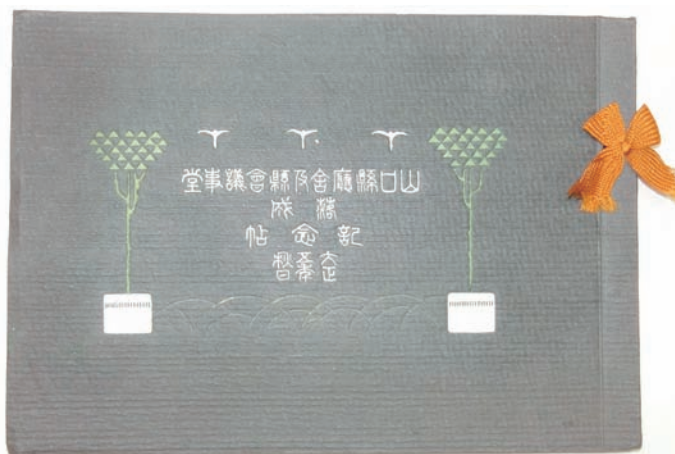


写真 2 (佐川家文書〈大島町〉1308)

大正 5 年 (1916) 11 月 20 日。快晴の佳日、山口県政の新たな舞台となる県庁舎と県会議事堂の開庁式が行われました。その様子を伝える写真 1 からは、正門にしつらえられた宏大な緑門や万国旗、招待客の人力車などが確認できます。

当時の県庁文書「開庁式一件」(県庁戦前 A 土木 449) によれば、式場と宴会場が庁舎西側に設営されました。式典では、県知事黒金泰義、内務大臣後藤新平、公爵毛利元昭、県会議長八木宗十郎らの祝辞に続いて、建築技師藤本勝往が工事報告を読み上げました。午餐の席では各種余興も催されました。

来賓には記念品として、「庁舎落成記念写真帖」「萩焼の杯」「大内塗の盆」「記念図書(『県治概要』と『防長の精華』)」が配られています。

記念写真帳には、山口の写真師麻生雲烟(麻生亮)撮影の写真が収載され、製本は東京神田の青雲堂に発注されました。写真 2 はその記念写真帳の表紙です。「Y」や「山」を抽象化した「▲」の図形などを巧みに組み合わせたデザインには、県勢の伸長への願いが

託されていたのでしょう。下部には、錦帯橋をモチーフにしたと思われる五連のアーチが二重に陰刻されています。このような、上質で緻密なデザインは、工事顧問として完成まで県庁舎の意匠設計に携わった武田五一の手になるものと思われます。

開庁式の夜、花火が打ち上げられ、鴻ノ峰山腹に設けられた「祝山口町」のイルミネーションが町を包み込みました。街筋は、祝賀の提灯行列の光の渦でにぎわいました。11 月 21 日・22 日の両日、新庁舎の県民へのお披露目も行われました。



山口県文書館

〒753-0083 山口県山口市後河原150-1
TEL083-924-2116 FAX083-924-2117 <http://archives.pref.yamaguchi.lg.jp/>

利用時間

【開館時間】 火曜日～日曜日 9:00～17:00
【閉館日】 月曜日、祝日、月末整理日、年末年始、資料点検期間

※文書館は山口県立山口図書館と同じ建物内にあります。
閲覧室へは2階へお上がり下さい。
※毎月の開・閉館日は、当館webサイトの閲覧室カレンダーをご覧ください。